

DBd療法 (Daratumumab+Bortezomib+Dexamethasone) (1コース目以降)							
		Day					
薬剤名	用法用量	1	4	8	11	15	21
ダラザレックス (Daratumumab)	16mg/kg 点滴静注※1	↓		↓		↓	
ベルケイド (Bortezomib)	1.3mg/m ² 皮下投与	↓	↓	↓	↓		
デキサート (Dexamethasone)	20mg 点滴静注	↓		↓		↓	

3週間ごと

※1 ダラザレックスの点滴速度はレジメンポイント参照

※2 レナデックス経口20mgをDay2.4.5.9.11.12に内服

【制吐対策】

軽度に準じる

【Infusion reactionに対する前投薬】

①アセトアミノフェン650～1000mg 静注or経口

②ジフェンヒドラミン25～50mg 静注or経口

※上記に加えて施設判断で1コース目Day1にモンテルカスト10mg 経口

【基本事項】

再発または難治性の多発性骨髄腫

【レジメンポイント】

①ダラザレックスによるInfusion reactionの軽減

②点滴速度の確認50mL/時の投与速度で点滴静注を開始する。患者の状態を観察しながら希釈後の総量および投与速度を以下に変更すること可能。ただし投与速度は200mL/時まで。

投与時期	希釈後の総量	投与開始からの投与速度			
		0～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以
初回投与	1000mL	50	100	150	200
2回目以降投与	500mL ※3				
3回目以降投与	500mL	100 ^{※4}	150	200	

※3 初回投与開始時から3時間以内にInfusion reactionが認められなかった場合、500mLとすることができる

※4 初回および2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でInfusion reactionが認められなかった場合、100mL/時から開始することができる

【相互作用】

CYP3A4誘導薬（リファンピシンなど）との併用により、ダラザレックスの代謝が促進されAUCが低下する可能性がある

【主な副作用】

Infusion reaction、肺障害、心障害、末梢性ニューロパシー、高尿酸血症、発熱、関節クームス試験への干渉、B型肝炎ウイルスの再活性化